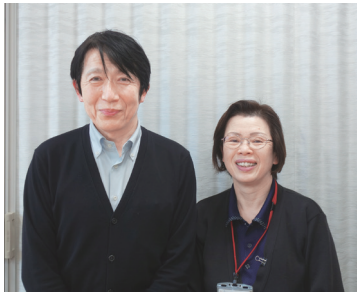
老健かすみがうら（茨城県行方市）

排泄自立へ生活リハとおむつ最適化



石毛事務長（左）、小島部長

医療法人青藍会（小林正貴理事長）が運営する介護老人保健施設かすみがうら（茨城県行方市）は20年以上前から在宅復帰のための排泄支援に力を入れている。入所時に介護士・看護師・理学療法士・作業療法士が身体機能、皮膚の状態、疾病などの状況から排泄能力を評価。トイレ排泄ができるのか、ポータブルトイレ、排泄時の見守りの必要性などを検討する。おむつやパッドが必要な場合は3日間の尿量計測を行い、使用するアイテムを決定。毎月開催する排泄委員会（CST）や、毎日のフロアミーティングで情報共有する。

排泄能力の改善には、レクリエーションを用いた日常動作のリハビリにも力を入れている。昨年9月には施設の中庭に「リハビリ庭園」を造設。散歩をしながらの歩行リハビリや、園芸でしゃがむ、指先を使うなどの動作をする。

屋内のリハビリは在宅復帰を想定し、トイレや手すり・家具などの位置をできる限り入居者の自宅に近い環境に整える。

2023年11月には在宅強化型へ移行。25年度（26年1月21日時点）の退所者は60人で、うち在宅復帰は22人となっている。

石毛豊秀事務長は「介護・看護・栄養・リハがそれぞれの視点で排泄ケアに積極的に関わる風土ができている。全職種の人事評価に排泄援助の項目を入れていることも自立排泄を後押ししている」と説明する。

取組みのきっかけは20年以上前にユニ・チャーム メンリッケの排泄用品「TENAシリーズ」を導入したこと。同社のTENAアドバイザーと連携しながら、おむつの当て方や選定方法の勉強会を全職員向けに実施し、排泄技術の向上にも注力してきた。

排泄能力に応じて▽比較的自立度が高い場合はベルトタイプの「TENAフレックス」▽尿量が多い場合や重度の人はテープ止めタイプの「TENAスリップ」▽パッドタイプの「TENAコンフォート」▽パッドと併用する専用フィクセーション「TENAフィックス コットンスペシャル」――などと使い分ける。

また、自力でのトイレ排泄はできるが便の拭き残しがある場合は、保清・保湿・保護の3つの役割をもつ「TENAウォッシュクリーム」を事前に肛門周辺に塗布し、軽い力で便をきれいに拭き取れるようにする。

介護部長の小島美枝子さんは「まずは入居者のできることをしっかり評価し、残存機能を最大限活かすこと。日々のちょっとした成功体験を積み重ねることが自立排泄に繋げるプロセスになる」と話す。

茨城エリアで排泄ケアの質向上

同施設はユニ・チャーム メンリッケと茨城県立中央病院が発起した、地域連携会「茨城合同CST水戸3セットセミナー」に参加。病院・介護施設など約30施設が参加し、排泄ケアの実践や、成功事例などを共有する。参加している病院からは「老健がしっかり取組んでいると、病院からも安心して患者を送り出せる」と信頼を得る場になっているそうだ。